

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	豊能町立東ときわ台小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	2	1	1	2	2	2	1	11	17
児童数	46	33	37	46	45	53	3	263	

研究の概要

1. 研究主題

<p>学ぶ喜び・ともに活動する喜びの創造～真の学力向上を目指して～ 学びが深まる共同指導体制の研究及び検証 個の学びが深まり、個の学びを生かし合える授業の研究 児童の願いや評価を生かした指導の研究～算数科を中心に～</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- 1～6年の算数
 低学年は、学習の入門期としてきめ細かな指導が必要であること、中学年は学習内容が抽象思考を求めるものが多くなること、高学年は理解度の差が大きくなることから、単元内容に応じて全学年で実施。
- 全教科・全学年
 「個の学びが深まり、個の学びを生かし合える授業」の追求を共通目標に、全教員が自己の選択した教科において研究を進める。

(2) 年次ごとの計画

- 平成15年度

テーマ

学ぶ喜び・ともに活動する喜びの創造

研究の見通し

子どもたちはそれぞれの学びのスタイルを持って学習している。一人ひとりの学びに目を向け、その子の学びのスタイルを把握・理解することをベースに授業を展開する。さらに、児童一人ひとりがそれぞれの学びから他の児童とどうつながって学んでいくか、どのように自分の学びに生かしていけるかという道筋を、授業展開の中に構想していく。また、学力向上の取り組みを支えるベースとして、「学校へ行くのが楽しみ」「友だちと一緒に活動するって楽しい」「私もがんばってみたい」という意欲を育てる教育課程・指導体制を構築することが、『確かな学力』につながるのではないかと考えている。

研究の内容・方法

学びが深まる共同指導体制・共同研究体制

：高学年においては可能な限りの教科担任制を導入する。また、低・中・高学年を

単位とした指導体制・研究体制を試みる。

公開授業研究

- ：本校児童の実態にもとづいて、子ども自身が「学ぶ」とはどういうことかを追求する授業を研究・展開する。
- ：単元構想図を作成することにより、つけたい力を明確化した、「学び」の深まる授業づくりを目指す。
- ：全員が授業を開き、ビデオによる検討会やリフレクションを行って検証する。
- ：学校現場において実践的研究をされている研究者から継続して指導を受け、研修を深める。

少人数（算数科）授業

- ：課題別・習熟度別・単元別担当制...等、学年や児童の実態、単元内容に合わせて、効果的な分割授業のあり方を探る。
- ：学力診断テスト、算数アンケート、レディネステスト、形成的テスト、振り返りカードなどを生かして授業を構想する。

・ 平成16年度

テーマ

学ぶ喜び、ともに活動する喜びの創造

研究の見通し

子どもの学びを深めることができたか、今までの授業に比べどう質的向上が果たせたのかを検討・分析し、授業改革を更に推し進める。

また、真の学力向上のためには、子どもにこうあってほしい、指導者としてこうありたいということを交流し合いながら、改革の原点に立ち戻りつつ授業検討を進めることで、学校全体の研究が深まるのではないかと考える。

研究の内容・方法

学年団研究体制および全体研究会の充実

- ：校務を整理して授業研究にかけられる時間を増やす工夫をする。
- ：研究推進委員会のリーダーシップのもと、研究内容の充実を図る。

公開授業研究

- ：各教科に共通する授業改革の効果的視点を明確にして教材研究を深め、授業者自身の意欲をかきたてる授業づくりを目指す。
- ：単元構想図の検討を深め、目標を明確にした授業づくりを研究する。
- ：全員が更に日常的に授業を開き、ビデオによる検討会やリフレクションを行って、学びが深まるための要素を明確化する。
- ：学校現場において実践的な研究をされている研究者による継続的な指導を受け、校内研修を深める。

少人数（算数科）授業研究

- ：課題別・習熟度別・単元別担当制等、単元内容や児童の実態に応じた効果的な分割授業のあり方を探る。
- また、指導形態の工夫と併せ、子どもたちに「楽しそう」「やってみようかな」「わかった!」「楽しかった」と感じさせる授業づくりについて研究を深める。
- 少人数分割に複数指導を加えた指導形態(分割+TT)の効果についても検証したい。

(3) 研究推進体制

- * 学校体制として授業改革に取り組むために、われわれ指導者自身の教育に対する意識の変革及び力量の向上を目指す。
 - ・研究推進部の設置
少人数加配教員2名と専科教員1名、管理職で構成。定例で週1回、必要に応じて随時研究推進部会を開く。
 - ・学年団研究会の定例化
週1回、低・中・高学年ごとの教員で組織。研究推進部員が推進役を担う。
教材研究、授業の検討、児童の理解等々、すべての研究の母体。
 - ・全体研究会
月1～2回、全員で行う。授業の検討を中心に、研修講演会、教育情報の共有、各学年団研究の交流等。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

学びが深まる共同指導体制・共同研究体制

高学年においては可能な限りの教科担任制を導入するとともに、全学年においてT T、分割授業、分割+T T、単元別担当制などを試み、担当教科を集中して研究したり、指導や研究を共にする機会を定例化するようにしてきた。また、学級・学年を越えた合同学習も進めてきた結果、教員同士が教育観や指導方法・指導技術を学び合えたばかりでなく、児童への理解の深まりが急速に進んだ。

個の学びが深まり、個の学びを生かし合える授業づくり

各教科の観点別学習目標を明確にした「単元構想図」を含む、本校独自の指導案づくりに着手した。更に、実際に授業研究を進める中で、授業改革の視点を8点設けることができた。また、この改革の視点にもとづく「私のチャレンジ」を明記することにより、「子どもの学びの深まり」がどうであったかに論点を絞った研究を積み重ねることができた。

児童の願いや評価を生かした指導～算数を中心に～

年度当初に実施した児童アンケートによると、高学年になるほど「算数はきらい」の割合が増える。そこで、興味深く意欲を持って学習できるように、具体物を用いたり、操作活動を多く取り入れたりして授業を展開してきた。また、自己選択することが意欲の持続につながることで実感できたため、できる限り自分で決める場面を取り入れるようにした。更に、少人数を生かして自ら発見できる場面を設けるようにした結果、一人ひとりの“発見に至る過程”を保障することができ、知的な喜びを感じ取らせることができた。授業後はふり返りカードを書き、自分の努力の足跡を振り返り、学びを積み重ねていくことの充実感を確認させた。

学力診断テストの結果にもとづいて、分割やT Tによる指導体制を軌道修正し、子どもの実態に見合ったものにすることができた。

子どもの算数ぎらいを払拭し、学力を向上させていくには、「楽しそう」「やってみようかな」「わかった!」「楽しかった」の道筋に乗せていくことが必要であることが見え始めている。

2. 今後の課題

- ・授業公開を一層推進することを原則に、教員同士の学び合いをさらに深める。
- ・少人数だからこそできる様々な工夫を取り入れた授業を一層追及する。
- ・総合的な学習の時間の充実を図る。
- ・一人一人の教員の良さややり方を生かしながら、学校としての共通の「学習スタイル」を確立する。

ル」「学習のきまり」を作る。

学力等把握のための学校としての取組

年度当初、1年生を除く2～6年生において、算数学力実態テスト及び算数アンケートを実施した。全体的な傾向は算数担当者がまとめ・分析し、各担任は児童ひとり一人の実態を把握した。それをもとに、各単元のレディネステストに活用した。3月には再度実施し、一人ひとりについて比較検討する予定である。

単元毎にふり返りカードを書かせて、児童自身の評価も取り組みの評価・検討の参考にしている。

保護者に対しては、研究のねらいや取り組みの経過を説明し、児童の様子の変化を通して研究の成果を25点にわたり評価していただいた。

また、保護者及び地域住民に全学級の授業を公開した。あらかじめ指導案を配布して授業のねらいを示した上で、授業に対する評価をしていただいた。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

校内授業研究会のうち、年間6回を町内全小中学校に公開して、提案授業としている。また、本町が定期的実施されている七次加配教員の研修会において、研究の経過を報告している。府教育委員会豊能地区フロンティア研修会においても、本校の取り組みのねらいや課題について報告を行った。

保護者に対しては、「学校だより」「学年・学級だより」の他に「学力向上フロンティアだより」を発行し、各学年の取り組みの様子を知らせている。また、2月中旬に実施した保護者アンケートの結果を集計し、寄せられた質問や疑問等に答えながら、本校の学力向上の取り組みについて3月に説明会を開き、普及に努める予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 ~~少人数指導~~ T・Tによる指導
 ~~部教科担任制~~ その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 (有) 無